

大阪市立成育小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、これまで全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査の正答率は安定しており、全国平均や大阪市平均を概ね上回る結果となっている。その一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査では全国・市の平均値を下回っている項目が多い。体力向上のために運動の機会をどう保証していくかが大きな課題となっている。また、健康な身体をつくるためには、食育による食事や栄養についてへの意識付けが欠かせない。

児童アンケートの「学校では楽しく過ごせていますか」の項目では肯定的な回答が90%を超えている。しかし、家庭環境等の様々な要因で不登校傾向になっている児童を減らすこと、いじめの未然防止や認知されたいじめを確実に解消していくことについては引き続き重点的な取組が必要である。

学校のきまりを守ることにに対する規範意識は高く、児童・保護者アンケートの肯定的回答も90%を超えている。あいさつについても児童・保護者ともに肯定的回答は90%を超えているが、「自分から進んで」「場に応じて」「気持ちのこもった」という点では課題が感じられる。

- ・ 全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査等を指標とし、現状を維持するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を重視し、言語活動の充実に取り組む。
- ・ いじめの件数を増やさないことや解消した割合を高くするために、心の教育やよりよい集団づくりを推進していく。
- ・ 体力の向上については、十分な運動スペースが確保しにくい中で、運動することの楽しさを味わい、運動の機会が増えるように工夫する。
- ・ 栄養のバランスを考え、しっかり食することとともに、食事のマナーについての指導を行い、食育についての関心を高める。
- ・ 地域・保護者と連携を取り、校外・校内での安全教育に取り組む。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度の調査より増加させる。
- ・ 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度末より減少させる。
- ・ 令和7年度末の児童・保護者によるアンケートにおいて、あいさつについての設問での肯定的な回答を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より増加させる。
- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より向上させる。

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和3年度より上昇させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ I C Tの活用に関する目標を設定する。
学習者用端末を活用した学習を行う時間を令和4年度末より増加させる。
- ・ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
令和7年度に年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を令和3年度より増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・ 道徳教育や情操教育の機会をとらえ、心豊かな子どもの集団づくりに取り組むとともに児童理解に努める。早期発見ときめ細かな指導を行い、いじめを解消した割合を90%以上にする。
- ・ あいさつや返事についての校内調査において肯定的な回答を90%以上にする。
- ・ 防災教育を通して防災意識を高め、校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66%以上にする。

学校園の年度目標

- ・ 春の体力テストと秋の体力テストの記録を比較し、「20mシャトルラン」テストの平均記録を2ポイント以上向上させる。
- ・ 残食量を前年度平均より減らすとともに、校内アンケートにおいて「給食を残さず食べている」に肯定的に回答する児童を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ ICTの活用に関する目標を設定する。
- ・ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

学校園の年度目標

- ・ 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか」という質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。
- ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」については、日々の教科学習、学校行事等を通して、他者とのつながりを大切にし、心豊かな子どもの集団づくりに取り組んできた。年に一度の「いじめについて考える日」、学期に一度のいじめの未然防止についての取組、月に一度の「なかまについて考える日」が、児童・保護者にも定着してきている。同時に児童理解、いじめの早期発見・早期対応に努めたため、いじめ解消の割合はほぼ100%であった。あいさつや返事については、代表委員会のあいさつ運動や毎朝の登校指導等の結果、肯定的な回答が90%であった。また、交通安全指導や不審者対応、避難訓練等の取組を通して、防犯・防災意識が高まり、自分の身の安全を守ることにに対する肯定的な回答は97%であった。一方、本校の課題である不登校傾向にある児童への対応は、今後も継続した取組が必要といえる。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」については、学力では、「効果的な対話の在り方」を重視して校内研究に取り組んできた結果、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をした児童の割合は43%であった。話し合い活動を通して、「話す力」とともに「聴いて考える力」がついた児童が増えてきた。また、体力の向上にも重点的に取り組み、特に、本校児童の課題である持久力について、体育科でラダーやタグを使った学習を取り入れて持久力向上に努めた。その結果、20mシャトルランの記録が、春と秋の全学年の平均回数を比較すると、男子は4.24回、女子は1.81回増加した。校舎工事のため、今後数年間は運動できる場所が制限されるが、現在の環境でできることを考え、今後、児童の体力向上につながるように、効果的な改善策を検討していく。また、給食の残食量については、栄養教諭の食育指導、給食委員会の給食週間等の取組を行ったため減少が見られたが、「給食を残さず食べている」に対する肯定的な回答は89%で、90%にはわずかに届かなかった。今後も個別対応を中心に継続的に取り組んでいく。

「学びを支える教育環境の充実」については、校内 ICT 活用研修を充実させたり、ICT 支援員を効果的に活用したりした。その結果、「ICT を活用した学習は好きですか」に対して肯定的に回答した児童の割合は91%であった。また、ノー残業デーの月1回の設定に加え、夏休みや冬休みの長期休業期間に学校閉庁日を設けることで、教職員が年次有給休暇を年間10日以上取得した割合は82%となった。今後も働き方改革の視点からさらに改善していく。

次年度も、各項目で取組内容を工夫しながら、年度目標を達成できるようにしていく。

(様式2)

大阪市立成育小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・中学校) <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育や情操教育の機会をとらえ、心豊かな子どもの集団づくりに取り組むとともに児童理解に努める。早期発見ときめ細かな指導を行い、いじめを解消した割合を90%以上にする。 あいさつや返事についての校内調査において肯定的な回答を90%以上にする。 防災教育を通して防災意識を高め、校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を75%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校児童の登校支援に取り組む。	B
指標 特別委員会を設置し、不登校傾向の見られる児童への早期対応を組織的に行う。また、不登校の児童の個人カルテを作成し、状況の把握を学校全体でできるようにする。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 心豊かな子どもの集団づくりと児童理解に努める。	B
指標 道徳教育や情操教育、より健全な集団づくり(学級集団・異学年交流)に取り組み、他者とのつながりを大切にして、認め合うことができるようにする。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 地域と連携し、安全教育に取り組む。	B
指標 地域の見守り活動や、校内の防災・減災・安全教育に取り組み、安全に対する意識の向上を図る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 「特別委員会」を設置し、不登校傾向にある児童について話し合い、組織的な対応がとれるようにしてきた。年度当初には、「3日連続欠席・学期毎に10日以上欠席や断続的に休みがちな児童がいる場合は、学年主任、生活指導部長、管理職に報告する。」ことの共通理解をして、これまで学校全体で連携・支援をしてきた。現状で不登校傾向のある児童に対しては、今年度より個人カルテを作成し、学校全体で児童の登校状況を把握できるようにし、家庭訪問や放課後の登校、部分的な登校、児童・保護者と継続的に関わりを持つようにするなど、個別の対応に努めてきた。また、いじめによる不登校児童を増やさないために、いじめの未然防止の啓発にも、各学年の実態に合わせて学期毎に取り組んできた。そして、今年度より「心の天気」を活用し、児童が登校した時や1日を終えた時の気持ちを天気に変えて入力させ、学級担任は日々児童の気持ちを可視化し、児童の学校生活や対人関係を把握できるようにしてきた。その取り組みの結果、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は88.8%以上となった。しかし、昨年度と比較して、不登校児童の在籍比率は増加し、前年度不登校児童の改善割合は減少している。
- ② 道徳科の学習を要とし、各教科学習、学級活動、行事等を通して、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりしながら他者とのつながりを大切にすることができるようにした。また、委員会活動やクラブ活動、たてわり班活動等を通して、異学年交流を行った。さらに、今年度は月に2回程度たてわり班での集会を行ったり、4年ぶりに全校集会「成育フェスティバル」を行ったりして、異学年で協力しながら活動する機会を増やした。卒業を祝う会では、たてわり班活動でお世話になった6年生に向けて、感謝の気持ちを込めて、メッセージを送る等の取り組みを行い、互いの心の結びつきが深まるような活動をした。
あいさつや返事についての校内調査において肯定的な回答は、児童アンケート90%、保護者アンケート87%だった。あいさつ週間を設定し、代表委員会を中心として、ポスターの掲示、門での呼びかけ等を行った。
- ③ レモン隊と協力した地域の見守り活動や、校内の、火災、不審者、地震・津波に対応した防災・減災教育、交通に関する安全教育に取り組んだ。指導において映像資料を用いるようにしたことで安全意識が高まった。昨年度末に校庭での怪我が多いという報告があったため、年度当初に学年別の遊ぶ場所が分かるように白線を引いたり、教師からの声かけを増やしたりした。
地域と協力した見守り活動、校内の防犯、防災・減災、交通安全教育に着実に取り組んだ。12月下旬にプレハブ校舎へ移動した学級があったため、火災の発生時の避難経路の確認と、地震・津波発生時の避難訓練を即座に実施した。また、学校内の怪我を減らすために、校庭の整備を行ったり、教師からの声かけを増やしたりした。中間評価後、廊下等を走って移動する児童が見られたため、12月に児童会が「廊下階段を歩こう週間」を設定し、ポスターを掲示したり、当番制で呼びかけを行ったりした。1月に実施した児童アンケートの「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか。」の項目で、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合は79%であり、これらの取り組みから安全意識が高まっていることがわかった。

今後の改善点

- ① 不登校の要因・背景が多様化していく中で、今後も個々の児童の状況を把握し、必要な支援をしていく必要がある。特に、いじめや対人関係での不登校傾向にある児童が今年度もみられるため、いじめ未然防止の啓発にも継続して取り組んでいき、現在不登校の児童に対しては欠席数や個人カルテで状況を把握しながら次年度へと引き継げるようにし、担任を中心として学校全体で理解、支援していく。心の天気についても、児童の気持ちを毎日確認しながら、雨や雷のマークを付けている児童に対しては、学校での対人関係だけでなく、家庭での悩みなどが隠れている場合もあるので、注意深く様子を見たり、声掛けをしたりするなど、学級担任はすぐに対応できるように努めていく。
- ② 来年度は全校遠足を行う予定なので、さらに異学年交流を積極的に行っていく。
- ③ 校舎建て替えに伴う、火災時の避難経路の再確認を行う。子どもたちの安全意識が保たれるよう、継続して教職員の声かけを行う。児童の様子みて、必要であれば児童会と連携し「廊下階段を歩こう週間」を設定する。

来年度も年間計画に沿って着実に安全教育を実施していく。また、児童アンケートで否定的な回答であった3%の児童に目を向け、個別に指導したり、安全な生活ができている場合はほめたりする。さらに、肯定的な回答をした児童の中にも、登下校の帽子が未着用であるなど、実践できていない児童がいると考える。看護当番の連絡を密にしていくとともに、月間目標の見直しや、週目標のあり方の検討も行っていく、さらに安全・安心な学校づくりを行っていく。

大阪市立成育小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66%以上にする。 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 春の体力テストと秋の体力テストの記録を比較し、「20mシャトルラン」の平均の記録を2ポイント以上向上させる。 ・ 残食量を年度当初の平均より減らすとともに、校内アンケートにおいて「給食を残さず食べている」に肯定的に回答する児童を90%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「効果的な対話」に重点をおいた授業を行う。	B
指標 全員が年1回以上公開授業を行い、内容を検証する。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 楽しく運動することを通して、体力の向上に取り組む。	C
指標 運動の機会が増えるように工夫し、持久力・走力の向上に取り組む。	
取組内容③【基本的な方向番号5 健やかな体の育成】 「食べる力」をはぐくみ、健康の維持増進や体力向上に取り組む。	B
指標 給食委員会での給食の残食調べや校内アンケートにより検証する。児童の実態を把握し、個に応じた取組を行う。	

<p>取組内容④【基本的な方向番号5 健やかな体の育成】</p> <p>清潔なハンカチを携帯し、手洗いの後、ふく習慣を身につける。</p> <p>指標 学級での指導とともに、保健委員会での清潔調べを月1回行い、定着させる。</p> <p>手洗い後、「清潔なハンカチを持ってきてふいた」に肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 4月に教育センターよりスクールアドバイザーを招き、「効果的な対話」についての全教員向けの研修会を行うことで、「対話的な学び」についての共通理解をはかった。そして、国語科の学習を中心に、各学年で児童の学習実態に応じた「効果的な対話」の研究を進めた。</p> <p>具体的には、全学年で研究授業を行い、よりよい対話について全教員で考えるようにした。授業では、一人学びの時間を十分に確保し自分の考えをノートに書いたり、話し合い活動での話型を掲示したりして充実した対話になるよう工夫した。また、教科書の教材文が全文一覧できるよう工夫したワークシートを活用することで、児童が本文中の記述から根拠を抜き出し、理由づけて話せるようにした。そうした工夫の結果、どの授業においても児童が思考を深める対話のようすが見られた。また、授業後の討議会では、全教員でよりよい対話について議論し、研究を深めるとともに、そこで得た学びを各学級の取り組みに生かすようにし、日々授業改善に取り組んだ。結果、経年調査における「学級の友だちと話し合う活動を通して、自分の考えをしっかりと持てることができましたか。」では、最も肯定的な回答をした子どもは43%（肯定回答は78.7%）であり、全市共通目標を達成していた。国語科で取り組んだ対話が、他教科の学習に生きる場面も見られ、今年度の研究は効果的であったといえる。また、小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率は、前年度比で国語が+0.46ポイント、算数が+0.53ポイントであった。国語はやや目標に達していないものの、いずれも前年度を上回ることができた。</p> <p>なお、小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は79.9%、「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は75.2%であり、理科は目標を達成、外国語（英語）は未達成であった。</p> <p>② 今年度の体力テストの記録と前年度の体力テストの記録や令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査などを比較、分析した結果、成育小学校全体として走力と持久力が課題であると分かった。昨年度よりラダーやタグを購入し、体育科の学習でラダーによる準備運動やタグ取り鬼ごっこ、冬の時期にはリズム縄跳びや蒲生グラウンド全面を使った鬼ごっこなど、持久力や走力の向上を目指した取り組みを各学年に応じて実施している。</p> <p>校舎建て替え工事に伴い運動場が狭くなり、体育科の学習、休み時間や放課後の遊び方も制限されることとなった。そのため、生活指導部や運動委員会（遊び）と連携して15分休みや昼休みの講堂開放、運動場の学年配当を決めるなど、子どもの安全や体力向上のための工夫を行った。また、運動委員会では「柔軟運動」「遊び」「陸上運動」「なわとび」の4つのグループに分けて取り組みを行った。具体的に、「柔軟運動」では柔軟運動の動画を視聴して体育科や家庭で取り組めるようにし、毎日の習慣になるように工夫した。「陸上運動」では「のびのびラン」として、音楽を流しながら20mシャトルランと同様の運動を3分間行い、記録の伸びを計測する取り組みを行った。「なわとび」では3つのレベルに分けたなわとびカードの中から自分に合ったレベルを選択し、自主的に取り組めるようにした。この4つの取り組みにより、運動場所が制限される中でも走力と持</p>	

久力を向上させるためのきっかけ作りができた。結果、春の体力テストと秋の体力テストの記録を比較すると、全学年の平均記録回数男子4.24回増加・女子1.81回増加、各学年のポイント数（得点）は1年男女・2年男子・4年男女・6年男子で1ポイント増加している。年度目標の2ポイント向上には届かなかったが、平均記録が伸びるなどの成果があった。

- ③ 児童の「食べる力」を育むための取り組みとして、給食を教材とした食育を実践し、各教科や栄養教諭による食に関する指導を行ってきた。2学期には、給食委員会の児童が各クラスに行き残食を調べ、賞状を渡してクラスみんなで頑張っ給食を食べたことを称賛するなどの活動を行った。3学期には給食週間の取り組みとして、低学年の教室に行っ牛乳の飲み残しを減らすための啓発活動を行った。

校内アンケートでは、「給食を残さず食べていますか」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は、89%となり目標の90%を概ね達成できた。給食の残食量については、2.1%（R5.5月平均）→1.4%（R6.1月平均）となり減少が見られたが、牛乳の残食率は4.2%（R5.5月平均）→2.5%（R6.1月平均）であった。この結果を踏まえて、児童一人一人に焦点をあて、偏食や時間内に食べられないなど個別対応の取り組みや、児童同士の声の掛け合いなどのさらなる取り組みの必要性を感じる。

- ④ 今年度は、清潔調べをほぼ週に一度行うことができた。清潔調べの結果は、「ハンカチ、ティッシュを持ってきた」の項目において、10月が75.6%、12月が79.3%と3.7パーセントの増加がみられた。指標である80%にわずかに届いていないが、「ハンカチで手をふいた」の項目においては、6月が77.7%、12月が87.7%と10%の増加がみられた。このことから、ティッシュを忘れているがハンカチは持っている児童が多いことがわかる。

清潔調べは、1か月に一度、保健委員会の児童が担当学級の様子や感想を書いて結果とともに担任が確認していたが、点検をした日に結果が分かった方が指導がしやすいという意見があった。そのため、毎回の結果のメモを黒板に貼ったりするなどして、担任がすぐ点検の結果から指導できるよう改善した。学級でその都度指導することにより、児童の意識づけにつながった。

清潔調べの集計や集計結果の検討、11月の保健週間を保健委員会の活動として進めていくことができた。そして、学校保健委員会を開催できた。

今後の改善点

- ① 研究推進委員会を中心に、情報交換をはかりながら、今後も「効果的な対話」について研究を深めていく。また、外国語（英語）について児童が親しみをもてるよう、指導の工夫を行っていく。
- ② 運動委員会では「柔軟運動」「遊び」「陸上運動」「なわとび」の4つのグループに分けて取り組んだが、運動場が制限されたり蒲生グラウンドで体育を実施したりしなければならないことを考慮して、狭い場所でもできる運動や一人でも体力の向上が図れる取り組みなどの実施計画を立てていく。また、運動場の学年配当を見直し、全学年ができる限りたくさんの運動を安全に楽しめるようにしていきたい。
- ③ 牛乳の飲み残しが減りにくい現状から、さらに個別の児童の実態把握に努め、発達段階に応じた手立てを検討していきたい。ただし、牛乳については、食物アレルギーのある児童や体調にも影響を受けやすいことから、これらの面にも十分配慮して行う必要がある。
- 次年度もこれまでの成果を維持しつつ、継続して児童一人ひとりの「食べる力」を育むことに重点をおいた食育を教職員で共通理解のもと取り組んでいきたい。
- ④ ハンカチやティッシュを持っていない児童は固定されてきている。引き続き、保健委員会の活動と学級での指導を続けながら、持っていない児童への声掛けなど、工夫する必要がある。

大阪市立成育小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小・中学校) <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用に関する目標を設定する。 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか」という質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 ノー残業デーを月に1回設定し、教職員同士で声を掛け合って働き方に対する意識を高められるようにする。 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT機器を効果的に用いて、学習者用端末を活用した学習を工夫する。 <hr/> 指標 児童アンケートの結果から検証し、児童の実態からICTを用いた学習の推進を図る。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員同士で声を掛け合って働きやすい環境を整備する。 <hr/> 指標 ノー残業デーを月に1回設定し、働き方に対する意識を高められるようにする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか」という質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合は結果的には91%となり大幅に目標を上回る結果となった。</p> <p>本年度、校内ICT活用研修を実施した。授業での学習用端末の活用の仕方、児童が意欲的に学習に取り組むための工夫について指導者が学ぶ機会を設定した。また、授業で活用できそうなインターネット教材や、Sky Menuの新たな活用方法、Power Pointを使った動画作成方法などをTeamsにて手順を共有したことにより、学習用端末を活用した学習に取り組むクラスが増えつつある。</p> <p>ICT支援員を効果的に活用し、低学年から授業で学習用端末を扱う時間を多く確保することで校内アンケートを全学年が学習用端末を使って行うなど、ICTを活用する場面が昨年度に比べて大幅に改善された。</p> <p>② 中間評価の時点では、時間外勤務上限基準1(1か月の時間外勤務が45時間以下)の達成率が昨年度より4.5%下がっていたが、1月末現在では、昨年度より5.3%上回っており、教職員の働き方に対する意識が高まった。</p> <p>1月末時点で、年次有給休暇を目標値(10日)以上取得している教職員の割合は82%で、目標の70%以上を達成した。</p>

今後の改善点

- ① 「ICT を活用した学習は好き」という児童の割合は 91% と高かったものの、「ICT を活用することが得意だ」と回答する児童の割合は 73% と少し伸び悩んだ。ICT を活用した授業を多く取り組むことができるようにはなったが、Sky Menu や Power Point などとうまく活用することに課題がみられる。今後も ICT 支援員の活用と ICT を活用する場面を多くとれるようにしていく。
- ② 現在のノー残業デーの退勤時刻 18:00 をもう少し早めに設定し、緊急時以外は全員退勤するように努める。
教職員が自身の体調に対する意識を高められるよう、体調のすぐれない時や緊急の仕事がない時は体を休めるように促し、働き方改革の呼びかけを継続する。また、今年度と同様、長期休業中に学校閉庁日を複数日設定する。